

平成22年10月三木市教育委員会（定例会）会議録

◇ 日 時

- 1 開 会 平成22年10月20日（水）午後1時35分
- 2 閉 会 平成22年10月20日（水）午後3時25分

◇ 場 所 三木市役所 5階 大会議室

◇ 会 議

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 前回会議録の承認
- 4 審議事項
- 5 その他
- 6 閉 会

◇ 会議に出席した者の職氏名

教育委員	1番	教 育 委 員 長	里 見	俊 實
	2番	教育委員長職務代行者	水 島	慶 子
	3番	教 育 委 員	稲 見	秀 穂
	4番	教 育 委 員	井 口	徹
	5番	教育委員（教育長）	松 本	明 紀
事務局		教 育 部 長	篠 原	政 次
		教育部政策主幹	告 野	幹 也
		教育総務課長	清 水	正 則
		教育環境整備課長	井 上	博 務
		学校教育課長	穂 積	正 則
		文化スポーツ振興課長	松 村	正 和
		教育センター所長	梶 本	佳 照
		図 書 館 長	近 藤	昌 樹
		教育総務課課長補佐	稲 岡	孝
		教育総務課	西未路	雅 恵
市民ふれあい部		市民協働課長	藤 田	均 士
		市民協働課特命課長	金 子	高 士

傍聴者 0人

◇ 会議内容

1 開 会

里見委員長が、平成22年10月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

井口委員就任及び里見委員長選任後の初めての定例会であるため、井口委員及び事務局職員が自己紹介を行うとともに、里見委員長が挨拶を行った。

2 会議録署名委員の指名

里見委員長が、本日の会議の会議録署名委員に、稲見委員と井口委員を指名した。

3 前回会議録の承認

里見委員長が、平成22年9月定例会及び10月臨時会の会議録の承認について諮り、全員一致で承認された。

4 審議事項

なし

5 その他

(1) 協議事項

里見委員長が、協議事項9「三木市立幼稚園設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、議会提出事件であることから、秘密会により、日程の最後に協議することを諮り、全員一致で同意された。

(2) 報告事項

ア 社会教育及び生涯学習に関する市民ふれあい部による補助執行事務の状況について

○ 清水教育総務課長が次のように報告した。

社会教育及び生涯学習関係事務については、本年4月から市

長部局の市民ふれあい部市民協働課で補助執行を行っている。

そうした状況の中で、教育委員会として、その執行状況等を把握する必要があることから、年2回程度、関係事務を執行する所管課の報告を求めて、執行状況を確認したいと考えている。

本日は、本年上半期、9月末現在の状況を報告する。

(ア) 社会教育委員会及び公民館運営審議会について

第1回社会教育委員会を8月6日に開催し、①今年度の社会教育施策の実施状況及び実施計画、②スポーツ振興ビジョン、③地域総合まちづくりステーションとしての公民館について協議が行われた。

また、第1回公民館運営審議会を8月10日に開催し、①本年度の公民館事業計画、②公民館利用層の拡大を図るための方策、③公民館がまちづくり総合ステーションとして市民ニーズに的確に応えるための方策について審議が行われた。

(イ) 生涯学習の推進に関することについて

a 公民館における生涯学習講座実施状況

市内10公民館で乳幼児学級、家庭教育学級、女性セミナー、高齢者教室及び各種専門教室を開催し、延べ13,625人の参加があった。また、公民館の延べ利用者数は、274,589人であった。

b みっきい生涯学習講師派遣事業

スポーツ・レクリエーション、家庭・社会生活、伝承文化などに関して市内各地域で行われる社会教育活動の主催者の要請を受けて、みっきい生涯学習講師を派遣した。

講師登録者数は51人であり、派遣回数は25回であった。

(ウ) 地域のまちづくりに関することについて

地域のまちづくりを住民自らの手で推進するために、地域団体が主体となり、①よろず相談事業、②地域再発見事業、③相互交流事業、④地域課題の解決、市民協議会の支援、⑤高齢者活動拠点づくり事業、⑥県民交流広場事業、⑦コミュニティ形成事業等を実施した。

(エ) 地域人権学習の推進に関することについて

人権学習に関する取組として、各地区において地区人権・同和教育推進協議会総会、指導者・リーダー研修、住民学習がそれぞれ開催されている。

(オ) 社会教育団体の育成に関することについて

a 連合PTA

夫婦共働き世帯の増加により、単位PTA役員の負担軽減が課題となっていることから、単位PTA活動を支援する事業に重点を置き、その他の事業を簡素化するための見直しを行った。

b 子ども会育成会連絡協議会

少子化と役員の不足により、連絡協議会へ加入する単位子ども会の数が減少しており、一部継続の困難な事業が見受けられるようになってきている。

このため、単位子ども会の活動に役立つ内容を主とした研修会の開催や会議、行事のスリム化を図るとともに、会員にとって、魅力のある内容となるように見直しを行った。

c 連合婦人会

各地区婦人会の解散が進み、婦人会活動が大幅に縮小していることから、女性の地域リーダーの育成が課題となっている。

このため、各地域の婦人会活動に対して、きめ細かい支援を行うとともに、各地域公民館での学習講座などを通じて女性リーダーの育成を図っている。

(カ) まなびの郷みずほに関することについて

a 高齢者大学

学生数の減少傾向と地域活動のリーダー育成が課題となっているため、今年度から、地域活動につながるカリキュラムを大学講座に取り入れるとともに、魅力ある学習講座の開設と広報により、入学者数の増加をめざしている。

b まなびの郷みずほの活用

高齢者大学の利用のみならず地元地域と市内各地域との交流による施設の活用拡大が課題となっているため、地元団体と施設利用者で構成するまなびの郷みずほ活用連絡会が主体となった「ふれあい昼市」や「交流キャンプ」を開催した。

今後も活用連絡会の意見を踏まえ、市内各公民館との連携を通じ、他地域との交流を促進したいと考えている。

(キ) 別所ふるさと交流館について

地元地域が主体となった当該施設の管理団体「さとの会」等

により、販売予定加工品試食会、レタス・大根・たまねぎの植栽、視察研修会、地域資源を生かした歴史講座、布ぞうりづくりなどを実施しているが、市内外の人々が集いふれあう新たな流れを創ることが課題となっている

このため、今後は、「さとの会」の組織強化を支援し、地域資源や施設を生かした物産販売や食堂運営に取り組み、地域活性化につなげたいと考えている。

(委員) 今後、このような報告が定期的に行われると考えてよいか。

(事務局) 上半期に1度と年度末に1度、定期的に報告したいと考えている。

(委員) 生涯学習講座の回数、参加者数について、前年度と比べてどのような状況か。

(事務局) 半期ごとの統計がないため、具体的な数値は示せないが、横這い若しくは微増である。

利用者数も同様の傾向である。

(委員) 各公民館単位にまちづくり協議会ができつつあるが、現在、何地区に組織されているか。

(事務局) 7地域に設置されている。

未設置は、三木、青山及び自由が丘地域である。

直近では、去る10月1日に三木南地域に設置された。

(委員) 三木地区の城下町まちづくり協議会との関係はどのようなになるのか。

(事務局) 現在、三木地区では、まちづくり協議会の結成に向けた取組を進めていただいている。自治会組織、ボランティア組織など地域のあらゆる団体を幅広く包括したような組織にしたいとお願いしており、城下町まちづくり協議会も、そ

うした団体の1つとして参画願いたいと考えている。

(委員) 連合婦人会の会員数が随分減少しているようであるが現状はどうか。

(事務局) 昨年度末に口吉川町婦人会、吉川町婦人会が解散になり、現在、単位婦人会は、細川町婦人会と志染町婦人会の2つだけである。

現在、連合婦人会では、個人会員にも参加、活動いただいている。

(委員) 数年前から考えると、随分減ってきた印象がある。

自治会をはじめ、婦人会、子ども会は社会教育をはじめ、いろいろな活動を通じて、地域を良くするために活動いただいている団体であることから、こうした団体を支援していくことは市の役割の1つであろうと思う。

放っておけばなくなってしまう気がして心配である。何らかの対応方針はあるのか。

(事務局) 地域の女性リーダーを育成するという観点での取組を進めている。

現在組織化が進んでいる市民協議会の中で中心となって活躍いただけるようなリーダーの育成を図りたい。

(事務局) 例えば、別所地区では、地域の婦人会組織が解散した後、区長協議会組織の中に入って活動されており、まちづくりに一緒に取り組もうとされている。

このように、昔のような裏方としての役割だけではなく、女性自らの意思でイベント等を進めようという動きが出てきている。今後も、そういった面は伸びていくのではないかと思う。

(委員) 例えば、防災に特化した組織に変えていくことも考えられるのではないか。

(委員) 最近では、ボランティアなどの場にも女性がたくさん出

てきておられるし、様々な活動をされている。

これまでの婦人会から少し形を変えて、そうした人たちのリーダーの組織化やリーダー養成などを考えてみてはどうか。

高齢者大学もニーズに合わせたカリキュラムの変更など、少しずつ形を変えながら、組織の維持や学生数の増員を考えていけばよいのではないか。

(委員) こうした団体に対しては、行政が指導し難い。団体自身が主体的に取り組まなければならないのが本来であるが、それができないことが大きな悩みであり、課題であると思う。

しかしこのままでは、心配もあるので、何らかの手立てが必要だと思う。

また、高齢者大学の学生数が減ってきているということについても、今後どのようにしていくのか。来年度以降に向けての方針などはあるか。

(事務局) 大学のカリキュラムの見直しとともに、大学院では専門性を高める講座、実践につながる講義内容に重点を置くことを考えている。

そのために、早い時期にカリキュラムを決定し、PRすることで学生の確保に努めたいと考えている。

(委員) 募集、入学時期はどのようになっているか。

(事務局) 毎年、4月からの入学に向けて、1月に募集をしている。

(委員) 予算決定との兼ね合いもあろうが、もっと早く、半年くらい前からPRする必要があるのではないか。

(事務局) 連合婦人会や高齢者大学の会員、学生の減少の原因には共通する部分と独自の部分があるように思う。

どちらも、役員になることは大変であるというムードは大いにあるように感じている。

一方、婦人会では、働きながら地域の中で付き合いをしていくことが苦痛になっているという感覚もうかがえる。

高齢者大学については、学生の減少傾向がみられたことから、学生自治会とも相談し、昨年度、募集時期を早め、若干の成果もあった。しかし、大学院については、4年で十分だという方がほとんどであるなど、結果的に、今春は成果がなかった。

イ 学校教育課の主要行事等について

○ 穂積学校教育課長が次のように報告した。

10月5日に、8月末の生徒指導のまとめ、教職員の人事評価の実施、教職員の交通事故の防止を議題として第7回定例校園長会を開催した。

また、先輩教職員から45歳以下の若手教職員に知識や経験を伝える第2回同和教育伝承講座を9月30日に開催した。今回の講座では、67人の全受講者から「よかった」、「まあよかった」という肯定的な評価を得た。

また、連合体育祭に代わる新たな事業として6（ロック）フレンドリーウォーク2010を10月12日に三木総合防災公園で実施した。

中学校進学を控えて他校の児童との交流を図ることとふるさと三木の再発見を目的として実施した当事業に関し、参加者784人にアンケートを実施した。現在、回収中であり、721人分の回答を集約している。

まず、「楽しかったですか」という質問に対しては、「大変楽しかった」が36パーセント、「楽しかった」が53パーセントで、「あまり楽しくなかった」が11パーセントであり、約9割の児童が楽しかったと感じてくれた。

次に、「他の学校の子とも交流できましたか」という質問に対しては、「できた」が69パーセント、「少しできた」が26パーセント、「あまりできなかった」が5パーセントとなり、約9割の児童が何らかの交流ができたと感じたようである。

また、窟屋の金水やどっこいさん、御坂のサイフォンなど「三木よさを感じることができましたか」という質問に対しては、「感じることができました」が79パーセント、「感じるできませんでした」が21パーセントとなり、約8割が、少しでも三木を知ることができたと感じてくれているということが分かった。

自由記述による感想では、「三木市の有名なところに行けたので、とても良かった」、「他校の人と仲良く交流ができ楽しかった」、「中学校で一緒になる人が分かったし、楽しかったので、中学校に行くのがこれまでは怖かったり、嫌だったりしたけど、中学校に行きたくなった」など肯定的に、素直に評価してくれている。

逆に、あまり楽しくなかったという11パーセントの児童の中には「連合体育祭の方が良かった」という答えがあった。

今後の予定として、10月23日に人権推進課所管の三木市教育事業交流学習会、25日にみきっ子未来応援協議会学校教育委員会が開催されるほか、26日に平田幼稚園・小学校、27日に自由が丘幼稚園・小学校の計画訪問を実施する予定である。

また、未定であった公立高校の一般入試日程が平成23年3月14日と決定されたため、中学校卒業式が3月11日に、特別支援学校卒業式が3月17日にそれぞれ決定した。

(委員) フレンドリーウォークを視察し、良い事業であったという感想を持っている。

このように、良いことはどんどんPRしていただきたい。

(委員) 委員の意見に同感である。

当日、生徒に個別に聴いた結果、面白くなかったという児童がわずかだがいた。

連合体育祭を、自分の出番だと待っていた児童もいるということである。そうした子どもは、ウォークラリーに参加する前からもう面白くない。そんな児童もいるということで、先生方が、事前にそういうことを良くお話されておく必要もあったのではないかと思っている。

この事業に、保護者が参加したら面白いと思うが、保護者のグループは参加できないのか。

(事務局) 子どもたちが得点を競い、順位をつける競技であったことから、今回は、参加してもらおう計画にはしていなかった。

保護者には、子どもたちの様子を見てもらい、危険箇所に対する注意喚起など側面からの支援をしていただきたいと考えて

いた。

なお、楽しくなかったと答えた児童の中にも、最後の自由記述欄には、友だちが新たにできてよかったという意見もあった。

総体的には、これまで面識のなかった子ども同士が知り合うことができ、中学校に進むハードルが少し下がったのではないかという思いがあり、本当に良かったと感じている。

(委員) 中学校に進学したときに、あのときに一緒に回った誰々だといえることは、随分大きな成果である。

(委員) 三木の名所旧跡をコースに組み込み回らせたことや、陸上競技場に初めて行った子どもなど、参加できたことで子どもたちは新しい発見ができたのではないかと思う。

保護者を参加させるかどうかは、様々な課題があると思うので、事務局で十分検討いただきたい。

ウ 教育センターの主要行事等について

○ 梶本教育センター所長が次のように報告した。

不登校問題対策事業の適応教室では入級面接や三者懇談会を行った。現在、適応教室には15人が在籍しており、そのうち7人が週1回又は2回程度学校へ通えるようになっている。また、ほとんど家に閉じこもっていた2人についても、毎日、適応教室に出席できるようになった。

また、本年4月から8月の教育センター利用状況は、回数1,839回、参加者数20,781人であり、昨年同時期と比較して、回数で0.93パーセント、参加者数で4.23パーセントの増となっている。

エ 文化スポーツ振興課の主要行事等について

○ 松村文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

事業実施状況については、第65回国民体育大会及び第10回全国障害者スポーツ大会出場選手激励会を9月21日に実施した。

また、第45回の市民ハイキング「みっきいウォークふるさとin志染」を10月11日に開催し、神戸電鉄恵比須駅前から

志染町の伽耶院を經由し、青山公民館へ至る15キロメートルのハイキングに110人の参加者があった。

10月10日から17日までの会期で開催したみなぎの書道展には、9,289点の作品の応募があり、期間中の来場者数は、2,489人であった。また、会期中には吉川高等学校茶道部と吉川町公民館のみよし茶道サークルの協力を得て野点を実施することができた。

今後の事業予定については、10月31日に、文化会館において17団体が出演する第33回の市民合唱祭を開催するほか、10月23日には三木ホースランドパークでスナッグゴルフ親子（ペア）講習会を計画している。

そのほか、10月22日から金物まつり最終日の11月7日までの間、三木市菊花協会の協力を得て、文化会館大ホール前で第49回三木市菊花展を、また、11月7日には金物まつり協賛事業として、みっきい広場で丸太切り競争を実施する。

(3) 次回定例教育委員会の開催日時について

里見委員長が、次回の定例教育委員会の開催予定日時について諮り、平成22年11月17日（水曜日）、午後2時から開催することを決定した。

6 協議事項（秘密会）

【協議事項9】三木市立幼稚園設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○ 清水教育総務課長が、協議事項9について説明した。

協議事項9については、三木市教育委員会会議規則第7条第1項ただし書きの規定により秘密会として協議したため、同規則第32条の規定により、協議の内容については記載しない。

7 閉 会

里見委員長が、平成22年10月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。